

加東市議会と市民との意見交換会記録（要約）

平成 29 年 7 月 20 日（木） 午後 4 時 開会

出席者

●議 員 産業厚生常任委員会委員 8 名

○加東市商工会（8 名） * 名簿添付

・ ・ ・ ・ 意見交換会 ・ ・ ・ ・

※●印は議員発言 ○印は商工会発言

●小紫委員長（司会進行）開会あいさつ

平成 22 年に制定した加東市議会基本条例により「加東市議会と市民との意見交換会」を開催する。この意見交換会は、市民との対話通じて市民の意見を積極的に受け止め、市民へ開かれた、信頼される議会にしていこうという趣旨である。

今回は、「加東市商工業振興基本条例制定後の具体策について」のテーマで、加東市商工会との忌憚のない意見交換ができ、有意義な会になればと期待したい。

○加東市商工会 藤井信孝会長あいさつ

加東市は、兵教大があり若者が多い。インターチェンジも 2 か所あり交通の便も良い。東条湖、加古川、播磨中央公園があり自然が豊かである。

また、4 つの工業団地もあり工業出荷高が極めて高い。など我々は非常に恵まれた環境に囲まれていることを念頭におき、地元商工業者にとって魅力ある事業展開を繰り広げることで、より多くの地元企業の発展や店舗の繁栄を支援し、商工会員の現場の声を市や県へ届けることが商工会の役割である。

今回は、加東市商工会の事業計画を説明させていただき、商工会の活動を詳しく知っていただく良い機会だと考える。また、議会と意見を交わすことにより商工会の今後の事業展開のヒントも掴めればうれしいと考える。

商工業者と商工団体と市の 3 団体が協力し合って地域商工業の振興を推進して参りたい。

●議 員 自己紹介

○加東市商工会 自己紹介

●小紫委員長

加東市商工会の平成 29 年度事業計画の説明を願う。

○加藤経営支援課長及び篠原事務局長

※「加東市商工会平成 29 年度事業計画」の説明

●小紫委員長

事業計画の説明に対し質問はあるか。

●二階委員

平成 28 年度の会員数の地域別の人数を教えて欲しい。

○篠原局長

社地域 488 名、滝野地域 262 名、東条地域 177 名、合計 927 名である。

●桑村委員

新規加入会員数 41 名は新たに創業した方の数字か。

○篠原局長

新規に起業された方の入会は 14 名である。以前から事業された方の新たな入会もある。

●小紫委員長

「加東市商工業振興基本条例制定後の具体策について」加東市商工会の方からご意見をお聞きしたい。

○藤井会長

策定された基本条例には「市の役割」「商工団体の役割」「事業者の役割」がそれぞれ記載されているが、具体的な施策はあるのか。

●井上委員

基本条例は総論的な内容になっている。具体的な施策は、今後策定される実施計画において示されると考える。実施計画策定に当たっては、商工会の関わりが大きいのではないか。商工会としても何らかの方針を持っておくべきだと思う。

○藤井会長

実施計画の内容については市から提案されるのか。また、現在、市は加東市第 2 次総合計画を策定中であるが、この基本条例との整合性は図れるのか。

●小川委員

この基本条例が 3 月議会で提案された時に、実施計画も同時に示すべきでは。との指摘もあった。それに対して市は、実施計画の策定に当たっては商工会と連携し商工会の意見を聞きながら策定したい。と答弁している。

また、商工業振興基本条例は、当然ながら第 2 次加東市総合計画と整合性が図れるものと考えている。

●藤尾議長

市から商工会に対して、基本条例を制定したが今年度の実施計画を共に策定したいとかのアクションはあったか。

○宮崎副会長

常日頃から市の担当部局にはお世話になっている。これまでは市の方で作り上げてしまってから商工会の方へ提示されることが多い。

今後、実施計画策定においては商工会や商工業者の意見を取り入れてやっていただきたい。

●小紫委員長

確認だが、基本条例が制定された後に、実施計画策定について市の方からアクションは無かったということか。

○篠原局長

5月に商工会の総代会、その後も関係団体の総会等で立て込んでいて当方が多忙だった。

市の担当者からは、商工会の意見を聞きながら実効性の高い計画が出来ればとの個人的な意見は聞いており、そろそろ何らかのお話があるのではないかと思う。

●桑村委員

当委員会は、先週、静岡県富士宮市へ中小企業振興アクションプランについて行政視察に行ってきた。富士宮市では商工会議所の会頭自らが基本条例を提案するなど、実施計画策定にも商工会議所が積極的に関わっている。

加東市でも議会と商工会さんと勉強しながら立派な実施計画を作っていくと考えている。加東市には、加東市が銀行に資金を預託して必要な方に融資する中小企業事業資金融資制度があり、商工会に事業委託しているがご承知か。

○篠原局長

市のホームページ等で制度は承知している。実際には具体的な業務としては市の方から何も聞いていない。この制度は、保証料を市の方が補てんする制度かと考えるが、他の制度にも保証人不要、担保不要の政府系の融資制度があり、会員にはそちらの方の融資制度を勧めている。

●桑村委員

創業支援の状況はどうか。

○加藤課長

昨年は、20名の方が創業塾を卒業され、その内6名の方が創業されている。市内では、飲食業、理美容、介護・福祉関係などがある。

●桑村委員

富士宮市では、融資制度や創業支援、空き家を利用した場合の補助制度等を実施計画で記載

しており、加東市でも商工会からどしどし意見を言ってもらいたい。

●小川委員

商工会は市へ何を求められるか。要望とかあればこの会で言っていただければと思う。

○宮崎副会長

先ず、予算化してもらいたい。市の方がすすんでいろいろな事を計画していただいていることはありがたいと感じている。

商工会としても提案することが欠けている部分もあると思う。

実施計画策定においては市と一緒にやって取り組みたい。その方が商工会職員や会員さんもやりがいがあるのではないかと思う。

●小川委員

是非、現場の「声」を実施計画に反映していただきたい。

視察に行った富士宮市では、商工会議所が会員に対しアンケートを実施しニーズや要望の把握に務め、そのデータを基に事業計画に反映していた。そのようなことも実践していただきたい。

○藤井会長

富士宮市の取り組みを知りたいので資料があれば提供いただきたい。

●小紫委員長

資料をお渡しさせていただく。

○加藤課長

昨年会員向けにアンケート調査を実施した中では、小規模事業者からは、金融や労務、税務に関する支援を引き続きやって欲しいとの要望があった。

また中堅企業から人材育成や人材確保が難しいとの結果が出ており、それを踏まえて平成29年度事業計画としている。

●藤尾議長

従前に商工会と市と兵庫県立大学が連携して商工業振興のプラン的なものがあったが、その後の状況、評価はどうか。

○宮崎副会長

以前確かに計画はあったと記憶にある。あれは、調査の実施や資料作成など主な目的としており、実際は何も生まなかったと感じている。やはり、やるとしたら効果が期待できる計画を立ててやるべきだと認識している。

●井上委員

市と共に「振興実施計画策定委員会」を設置して検討したらどうか。

○藤井会長

とても良い提案だと思う。結論を早く進むためには、このような会に市も同席したらどうかと思う。

●桑村委員

我々は視察にも行っておりそれを参考にしつつ、議会、商工会、市の三者で策定したらどうかと思う。市が入らないのであれば議会と商工会で作り上げればよい。

●藤尾議長

このことに関しては議会のルールもあり、よく検討していきたい。

●二階委員

三者で策定したらどうかとの意見はあるが、私の感覚では市がこのような場に入ってくると議員は市寄りの体制になり、議員が公平中立でなくなるため私は好ましくないと思う。

●小川委員

現状、商工会から市へ意見等が言いにくいや言えないような雰囲気はないのか。

○宮崎副会長

商工会職員は、補助金等の関係で言いづらい事はあるかもしれないが、会長や副会長はそのようなことはない。

ただ、現時点ではそのアクションプランを市がどの辺まで考えていて、スケジュール等もわからない。ただ、計画には商工会の意見を反映していただきたい。

●小川委員

商工会からも積極的に意見を言っていただき、商工会の意思を反映させていただきたい。それが難しい場合は議会へ言っていただければ議会としてもバックアップしていきたいと思う。

●桑村委員

道の駅構想やビオ周辺の事業など、市は色々な構想を考えているが、そのような話は商工会へは入ってこないのか。

○宮崎副会長

市と商工会と関係団体で委員会（コンソーシアム）を立ち上げたが、我々が意見を言う場がほとんどなかったのが事実である。

市の方で色々な計画をしていただくのはありがたいが、コンソーシアムを立ち上げ事業を進めていこうというのであれば、商工会の意見も吸い上げていただき進めてもらいたい。

○藤井会長

策定された基本条例には「市の役割」「商工団体の役割」「事業者の役割」がそれぞれ記載されているが、「議会の役割」はどこに記載されているのか。

●藤尾議長

議会が直接事業や役割を果たすものではない。

議会は、市の役割が適切に果たされているかをチェックしたり、条例の目的が達成されているかを検証するのが議会の役割であると思う。

○藤井会長

基本条例第6条に商工団体の役割がある。その中で「商工団体は、市と協力して・・・」とあるが、まずは市からの提案があり、それに対し商工会が協力するという形で積極的なアクションプランを作り上げていくのが本来の姿ではないかと思うが。

●小川委員

市からの提案も大事だが、やはり商工会が主体性を持って積極的に意見を述べ、その意見が実施計画に反映され、実態に沿った施策につながるのではないかと考える。

●小紫委員長

この件に関しては委員間でも若干の個々の意見の違いがあると思う。

個人的な意見になるが、市から提案があった場合には、少なくとも商工会はしっかりと市以上の勉強をしていないと反論が出来ないのではないかと。市の提案を待つばかりでは、市の提案を追認することだけになってしまうのではないかと思う。

○藤井会長

我々も勉強する必要性を感じた。アンケートなどを実施するなどして、市へ提案するなど、商工会と市のとキャッチボールは重要であると感じる。

●桑村委員

実際に商工業に携わっている者が内容的なものは一番知っていると思う。審議会等で審議しても実情が分かっているかといえば一概にそうでないと思う。

当事者が意見を述べてこそ商工業の発展につながると思う。商工会からも遠慮なく意見を述べて欲しい。まちの発展につながることは議会としても協力する。

○藤井会長

私は第2次総合計画策定委員会の委員で委員会の場で意見を述べている。

私は加東市で生まれ、加東市で事業を行っており、加東市を大事に思って発言するが、市は9割方意見を取り上げてくれない。想いを伝えても「これは10年前に決まったことだ」等の理由で取り上げてもらえない。加東市に対する愛情とかを感じられる回答を期待したい。

●藤尾議長

審議会を傍聴していた。あのような会では市のプランは当初から決まっており、市は「意見を聞く」ではなく「案を承知して欲しい。」とのスタンスが強い。

●井上委員

今後また、議会と議論や意見交換を必要とされる場合は議会の方へ申し出ていただければと思う。

●小紫委員長

冒頭に申し上げたが、議会基本条例により「市民との意見交換会」は、申し込んでいただければいつでも開催出来るので活用していただきたい。

○藤井会長

第2次総合計画のキャッチフレーズは、今後20年、30年使用することは決まっている。とのことだったが、ふるさと加東を愛する者からすれば、変えていってもいいのではないかと意見に議会としてもバックアップしてくれるか。

●桑村委員

建設的で前向きな意見は取り上げていきたい。と個人的に思う。

●高瀬委員

基本的にはスクラップアンドビルドである。良いものは残し、変える必要があるもの変えていくものだと思う。

●小紫委員長

閉会したいが、最後に商工会の方から何か伝えておくことはないか。

○篠原局長

※実施事業のパンフレットの紹介

●岸本副委員長

閉会あいさつ

午後5時20分 閉会